

南阿蘇村消防団の 熊本地震に対する活動報告

特集

今回は南阿蘇村消防団を特集します



発災後対応を協議中の本部

南阿蘇村消防団は、中尾博昭団長を筆頭に、副団長6名、各分団長18名、総勢570名で構成されている。

平成28年4月14日21時26分。熊本地方で震度7（益城町）の地震が発生し、南阿蘇村でも震度5弱の揺れを観測。その後強い余震が続く中、消防団本部（副団長以上）から各分団に被害状況確認の指令を出し確認をした。立野地区で石垣の一部崩壊などはあったものの、大きな被害は無く、余震も次第になくなったため、一安心した。

平成28年4月16日1時25分。南阿蘇村で震度6強の地震が発生。後日、この地震が本震で、地震の規模は阪神・淡路大震災と同規模であったことが分

かる。

真夜中の大地震で停電状態、さらに携帯電話が繋がりにくい中で、消防団本部員は久木野庁舎に集合。しかし、阿蘇大橋が崩落、主要道路が土砂崩れや道路陥没で通行できない状態で、全員が久木野庁舎に集結できない事が判明するなか、人命にかかる現場情報が次々に入ってくる。黒川区、高野台地区、火の鳥温泉、立野区、新所区、乙ヶ瀬区、沢津野区：

消防団本部では、全分団を召集し、団長が統括指揮、副団長が現場指揮を執る体制を整え、救助活動や自衛隊・警察・消防などの活動を支援するため、250名近くの団員が活動した。

救出作業が終了した後も、消防団員は避難所の仮設トイレへの給水活動や、自衛隊の給水車への給水活動、支援物資の搬入支援などを行った。

また、現在も夜間パトロールや、大雨の際には避難呼びかけの実施、水防活動に向けて事前

に土のう作り、立野地区の一時帰宅時の警戒監視活動など、ひ

とつの分団に負担がかからないように、管轄外でも全分団が協力しあって活動を行っている。

地震に始まり大雨の対応など、消防団は毎日活動を行っているが、避難所から参加している団員も数多い。

4月16日から28日までの12日間、消防団幹部は本部である久木野庁舎に泊まりこみ、団員も現場での多様な活動が続いた。12日間でのべ1390名が出動し、今なお自らのことよりも、地域住民の安全安心な暮らしを守るために高い士気を持って活動している。今後も消防団一丸となり、村の復興に邁進していく所存である。



給水活動を行う消防団員

編集後記

この度の地震や豪雨により被災された皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。先人たちが長い時間をかけて築いてきた地域や自然が、数秒間の揺れでなくなってしまう下り坂、「まさか」という坂があり、被災するのは誰も思っていなかったのではないのでしょうか。自然の力の脅威を見せつけられた、この度の大地震でした。私たちは一度の人生を前に向かって進んでいかなければなりません。起きたことは取り返しはつきませんが、今、動き始めています。復興に合わせ、地方創生も同時進行を進めなければなりません。村民の皆様方の知恵や協力で、南阿蘇村を再生していきましょう。

「皇国の興廃この一戦にあり。各員一層奮励努力せよ。」と、議事、執行部、職員一丸となつて、前に進んでいきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

議会広報特別委員会
委員長 後藤 征昭

委員長 桐原 純男
副委員長 市原 秀志
委員 脇坂 春喜
委員 後藤 征昭
委員 丸野 健一郎
委員 太田 吉浩

発行責任者

議長 荒牧 俊一

議会広報特別委員会